

神奈川大学デジタルアーカイブ リニューアル

〔所員〕 後田多敦

神奈川大学デジタルアーカイブワーキンググループ：

神奈川大学図書館 情報システム推進部 研究支援部 日本常民文化研究所
非文字資料研究センター 大学資料編纂室

リニューアル公開までの経緯と課題

後田多 敦

神奈川大学にデジタルアーカイブ（以下、「神奈川大学 DA」と表記）は、2020 年度に新システムへリニューアルする作業を始め、2021 年 4 月から公開を開始した。今回のリニューアルは、従来システムのバージョンアップ、ファイルサーバのリプレースの機会に行ったものである。これまでの経緯を確認しておきたい。

神奈川大学 DA が最初に公開されたのが 2013 年で、開設するための検討がはじまったのは 2010 年度であった。折から常民研において、調査・所蔵資料の情報の電子化にともなって、その保管・

管理・利用の整備をはかる必要が検討され、学内の複数の部署・研究所でも同様の課題をかかえていることが共通理解となっていた。

2011 年度に入って、常民研の呼びかけのもと、図書館、情報システム推進部、非文字資料研究センター（後に大学資料編纂室）からそれぞれ出席し、神奈川大学 DA を構築するための事業を始めること、そのために常民研より特別予算を申請することを確認した。2012 年度の業者選定、構築期間を経て、2013 年 5 月より神奈川大学 DA の公開が開始され、構築に際してその業務の主体になった神奈川大学 DA ワーキンググループ（上記の 2011 年度会合の参加部署と大学資料編纂室）はその後も継続して、その管理運用にあたるこ



写真 1 神奈川大学デジタルアーカイブ トップページ

ととなり、現在は図書館が所管部署となっている。

2016年度には、常民研の7つのデータベース（以下「DB」と表記）「常民研刊行物論文DB」「民具マンスリー論文DB」「常民研収集歴史資料DB」「漁業・漁村筆写資料DB」「『絵引』原画DB」「写真資料DB」「映像資料DB」のデータ入力を大きく強化した。一方、システムのバージョンアップ、ファイルサーバのリプレースを行うかどうかの選択が迫られ、神奈川大学DAワーキンググループで何度かの検討を行った。現システムはさまざまな資料に汎用的に対応できるよう、しっかりした構造になっている反面、柔軟性に欠けており、ユーザー側で適宜変更し難い仕様になっていた。また、ファイルサーバの耐用年数の関係からリプレース（交換）が一定年数ごとに発生し、それなりの予算が必要となることも課題となっていた。また、より根本的な問題として、学術情報のデジタル化とその発信に関しては、どんな形でも発信ができるように整備するとともに、各部署の担当者がデジタル化と情報発信の基本的な考え方や知識を身に付け、研鑽に努めつつ、業者の既存のシステムへの対応に終始することがないような体制を築くことが大切であるとの認識が、次第に大勢を占めるようになった。

以上の経緯によって2020年度に新たなシステムにリニューアルする作業がはじまり、2021年4月から公開を開始している。まだ整っていない情報も多く、検索機能等についても行き届いていない面が散見されるが、今後順次整備を進めていきたい。また、どのようなデータベースが望ましいか、持続可能なシステムの在り方など、根本的な課題も引き続き残されている。今後はこれまでの成果を踏まえ発展させる形で、これらの課題に取り組みたいと考えている。

■ 2020年度の活動

- ワーキンググループ作業部会 2021年11月16日 図書館（堀江美由紀）・日本常民文化研究所（越智信也・山本直美・木村美江）・非文字資料研究センター（中村裕史・成田紅音）・大学資料編纂室（木内好信・齊藤研也）、インフォコム・ロジカルウェブ
- 操作研修 2021年1月25日 日本常民文化研究所・非文字資料研究センター・大学資料編纂室・インフォコム
- システム構築作業 2020年11月～2021年3月 日本常民文化研究所・非文字資料研究センター・大学資料編纂室

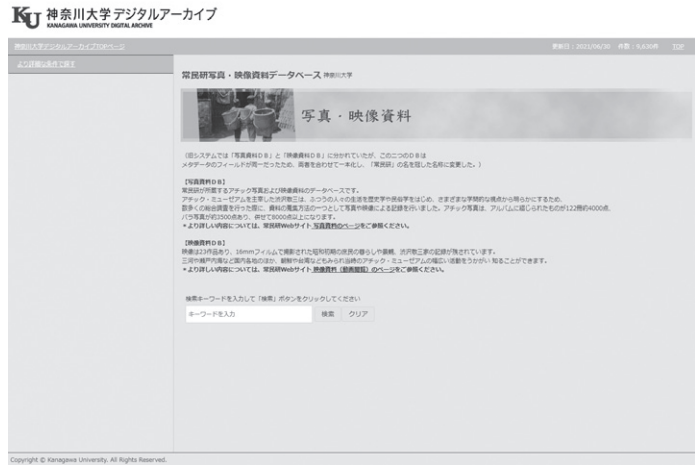


写真2 常民研写真・映像データベースストップページ



写真3 常民研写真・映像データベースの検索結果画面